

北海道ニセコ高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスchool宣言 Part II)

| 全国の農業高校の行動計画 | | 学校において令和 7 年度に重点化する取組及び具体的方策 | | | |
|-------------------------------|---|--|---|----------------------------------|----|
| 「5つのミッション」 | 「8 の行動計画」 | 行動計画の中で重点化する取組 | 実現状況 | 課題 | 評価 |
| I グローバル教育 で人材を育てる 学校 | 1 「生徒一人ひとりを 一層輝かせ成長させる 教育」を行います。 | (1) 生徒の活躍する場を新設 (2) 個に応じたキャリア教育の充実を 図る。 (3) 資格取得の充実 | (1) JICA筑波での国際農業研修や、 国内外でのグローバル人材研修など 年10回程度の校外研修を実施した。 また、授業内プロジェクトを、北海 道大学での学会発表や、道教委主催 Ezo 探究-Festivalに出場するな ど、生徒の活躍する場を広げた。 (2) 2 年生に対し、進路希望に合わ せた実習を実施した。 (3) 農業技術検定 2・3 級及び食品 衛生責任者資格取得指導を実施し た。 | ・取組の継続 | 5 |
| | 2 「世界と日本をつな ぐグローバル教育」 を行います。 | (1) ニセコ町が取り組むSDG s 未来都市 としての活動を学ぶ。 (2) グローバル人材育成教育の充実 | (1) 各教科の取組の中で、SDG s につ いての学習活動を実施した。 (2) マレーシア見学旅行及び台湾視 察研修を実施した。 | ・取組の継続 | 4 |
| II 地域社会・産業 に寄与する学校 | 3 「地域農業の生産を 支える教育」を行いま す。 | (1) 地場産業を支える取組 (2) 地域の主要農産物の栽培課題を発 見し、解決に向けたプロジェクト学習 の実施 | (1) 町内の協力企業等でのインター ンシップを実施した。 (2) JAようてい、地域農家、道の駅 及び酪農学園大学と連携し、イタリ アン野菜やホワイトアスパラガスの 生産課題解決に向けた栽培を実践し た。 | ・取組の継続 | 5 |
| | 4 「地域の農業関連産 業や6次産業化に寄 与する教育」を行いま す。 | (1) 地域農家、有機ワインブドウ農家 での視察実習と農業実習 (2) 地元 6 次産業との連携 | (1) 年間 4 回の実習と視察を行い、 ニセコにおける有機果樹栽培を学ん だ。 (2) 町内で 6 次産業化しているニセ コワイナリーやニセコテイスティ、 ニセコ高橋牧場レストランブラ ティーヴォとの連携学習を実施し た。 | ・取組の継続 | 5 |
| III 地球環境を守り 創造する学校 | 5 「地球環境を守り、 創造する教育」を行 います。 | (1) 小樽開発建設部後志中部農業開発 事業所と連携した「環境に配慮した農 地開発」の学習により、持続可能で創 造的な農業を学ぶ。 (2) エネルギー教育の充実 | (1) 現地学習を通して環境に配慮し た農地開発を学んだ。 (2) クボタアグリフロントでの研修 や、SDG s 学習を通した持続可能な エネルギーについて学んだ。 | ・取組の継続 | 5 |
| | 6 「地域資源を活用 し、地域振興の拠点 となる教育」を行いま す。 | (1) ニセコ町教育委員会・CS委員会と 連携した食育交流・菜園交流 (2) 国際交流員との食文化交流 | (1) 幼児センターとの菜園交流を実 施した。 (2) 食文化交流「ワールドキッ チン」を、年 3 回実施した。 | ・取組の継続 | 3 |
| IV 地域交流の拠点 となる学校 | 7 「Society5.0の時代 に応じた教育」を行 います。 | (1) DXハイスクールの取組推進 | (1) Googleやデロイトトーマツ、京 都大学、小樽商科大学との連携を行 い、DXハイスクールの取組を推進し た。また、放課後起業家クラブで は、生徒のアイデアを形にする取 組を実施した。 | ・取組の継続 | 5 |
| V 地域防災を推進 する学校 | 8 「地域防災を推進す る教育」を行いま す。 | (1) 実習に関わる安全教育の徹底 (2) 実習中の災害への備え | (1) 実習服・帽子・長靴・軍手の着 用を徹底した。 (2) 危機管理マニュアルの見直しを 行った。 | ・農場実習中の地 震、原発事故への備 えを徹底する。 | 4 |